

2019年3月期

第2四半期決算説明会資料



GOOD DESIGN AWARD 2018
BEST 100

2018年11月2日

ヤマハ株式会社

決算発表のポイント

決算概要

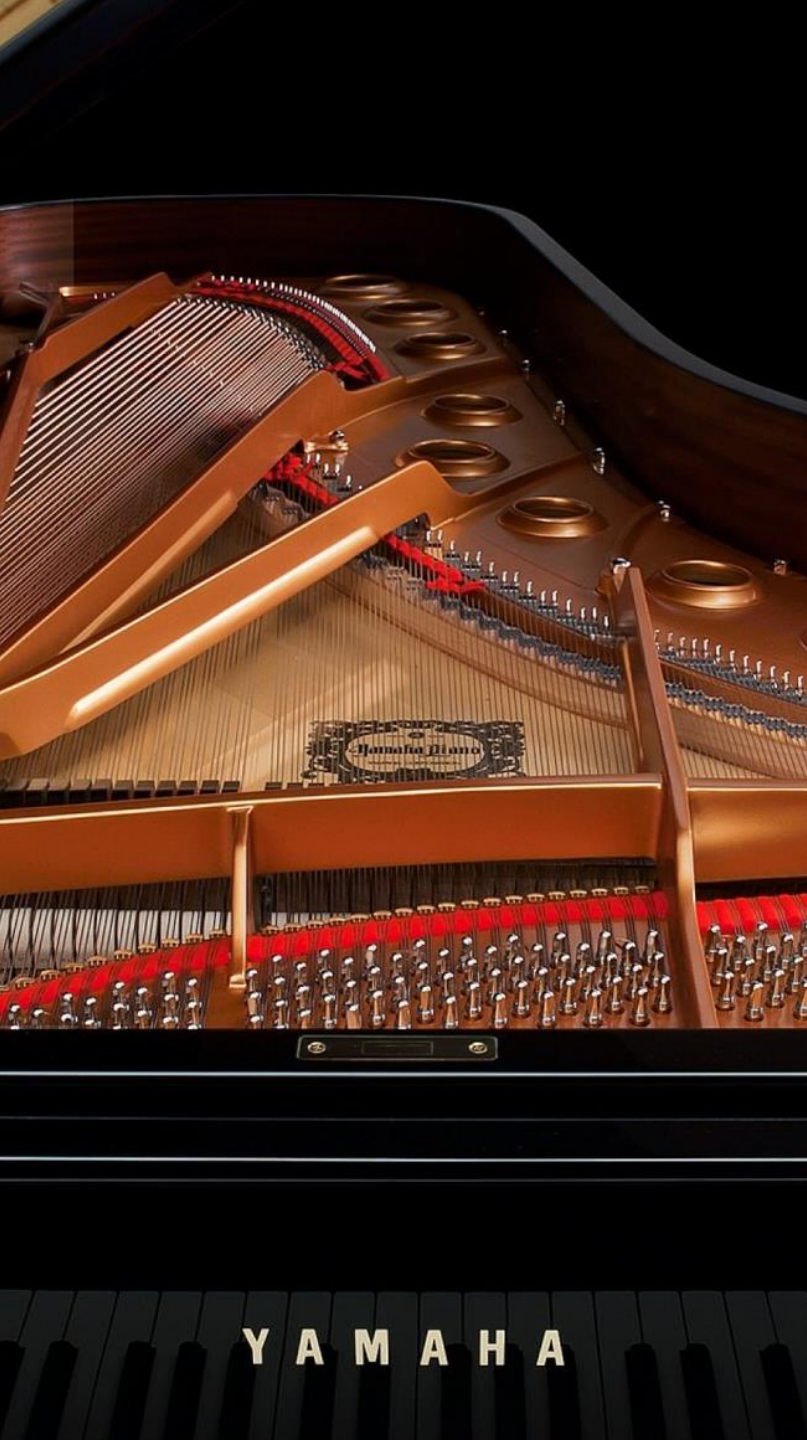
<19/3月期 上期実績>

() 数値は前年同期との対比

- ・ 対前年同期、増収増益。通期計画に沿って順調に進捗
- ・ 売上高は、主力の楽器事業、その他の事業が堅調に推移(+2.3%)
- ・ 営業利益285億円(+19.1%)、営業利益率13.3%(+1.9P)を達成

<19/3月期 通期予想>

- ・ 従来業績予想を据え置く
(売上高4,420億円、営業利益550億円、営業利益率12.4%)
- ・ 3Q以降の為替前提は、US\$105円、ユーロ125円にて変更なし



1. 決算概要

業績概要

(億円)

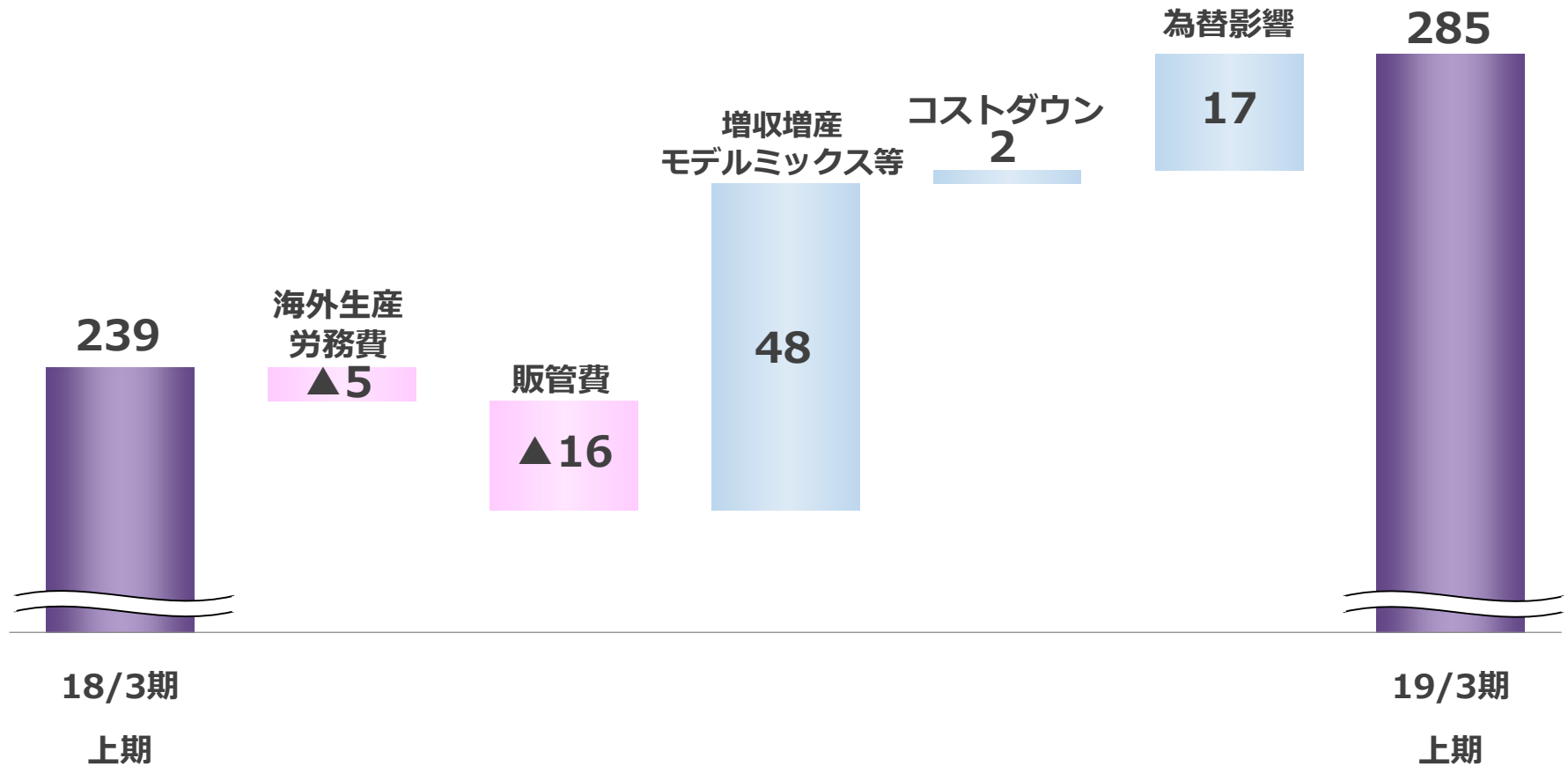
	18/3	19/3	前期比	
売上高	2,098	2,146	+48	+2.3% ^{*2}
営業利益 (営業利益率)	239 (11.4%)	285 (13.3%)	+46	+19.1%
経常利益	247	298	+50	+20.4%
当期利益 ^{*1}	196	219	+22	+11.4%
為替レート (円)			*2 +2.2% (為替影響除く)	
売上高 (期中平均)	US\$	111	110	
	EUR	126	130	
利益 (決済レート)	US\$	111	110	
	EUR	122	132	

*1 連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

営業利益増減要因

前期との比較

(億円)



事業別業績

(億円)

		18/3	19/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上高	1,342	1,390	+48	+2
	営業利益	166	216	+50	+12
	営業利益率	12.4%	15.5%	+3.1P	
音響機器事業	売上高	576	565	▲11	0
	営業利益	52	47	▲5	+5
	営業利益率	9.0%	8.2%	▲0.8P	
その他の事業	売上高	181	191	+11	▲1
	営業利益	21	22	+1	0
	営業利益率	11.7%	11.7%	0P	

* 新規事業開発費用の負担の見直しによる営業利益影響額・・・楽器事業 +4億円、音響機器事業 ▲4億円

通期業績予想

(億円)

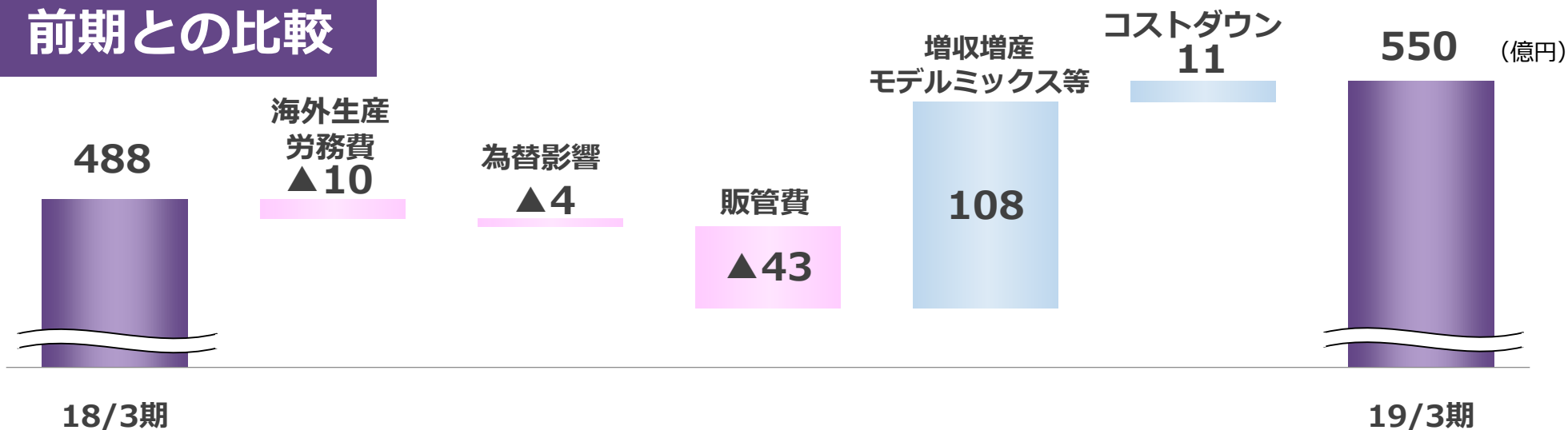
	18/3		19/3予想		前期比	
売上高	4,330		4,420		+90	+2.1% ^{*2}
営業利益 (営業利益率)	488 (11.3%)		550 (12.4%)		+62	+12.6%
経常利益	492		550		+58	+11.7%
当期利益 ^{*1}	544		400		▲144	▲26.4%
為替レート (円)						*2 +4.3% (為替影響除く)
売上高 (期中平均)	US\$	111	108			
	EUR	130	127			
利益 (決済レート)	US\$	111	107			
	EUR	126	129			

*1 連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

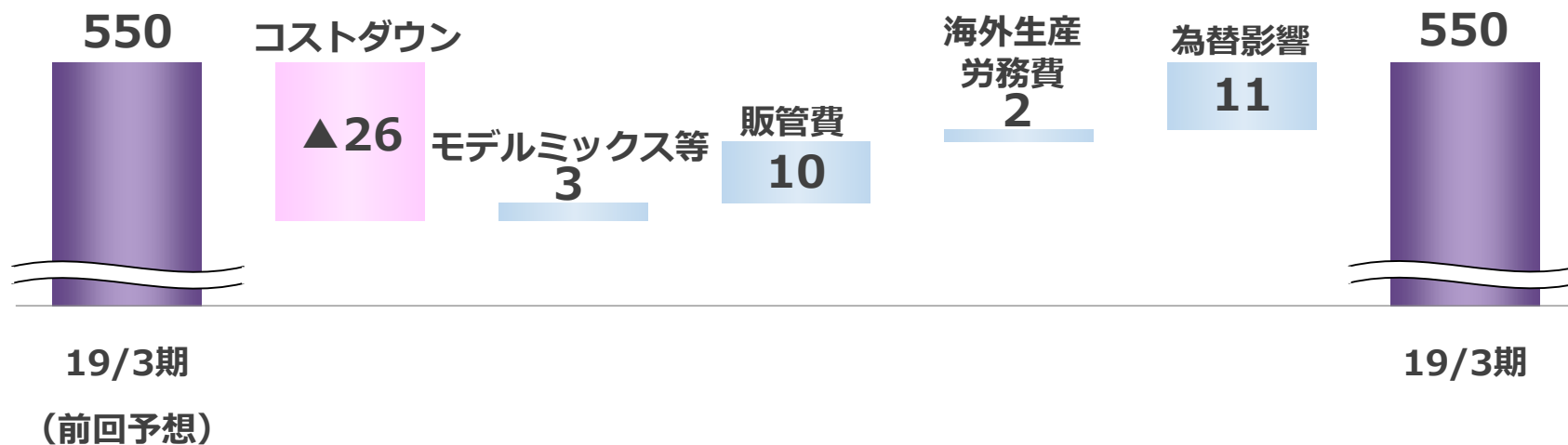
*2 3Q以降の為替前提は、US\$105円、ユーロ125円にて変更なし

営業利益増減要因

前期との比較



前回予想との比較

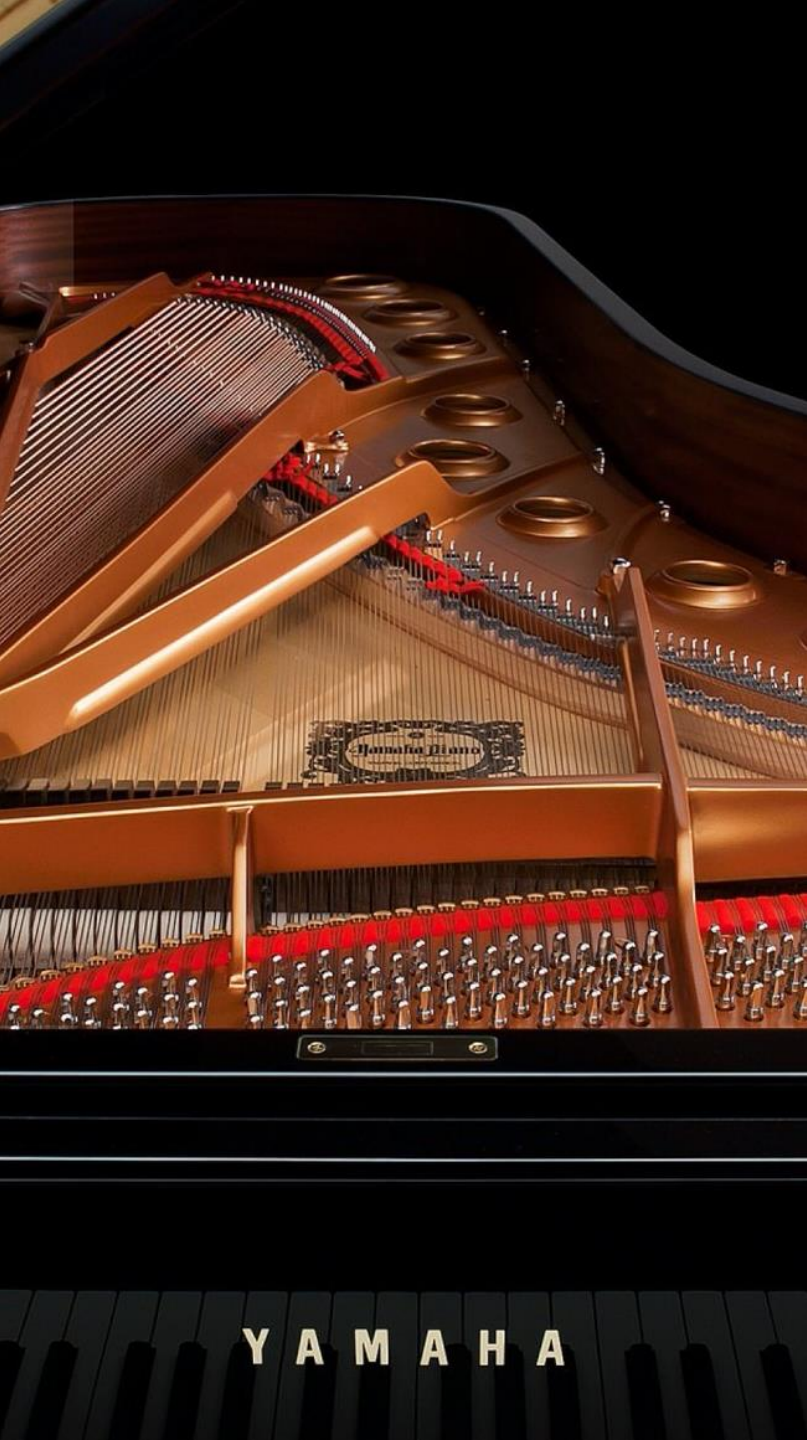


事業別通期業績予想

(億円)

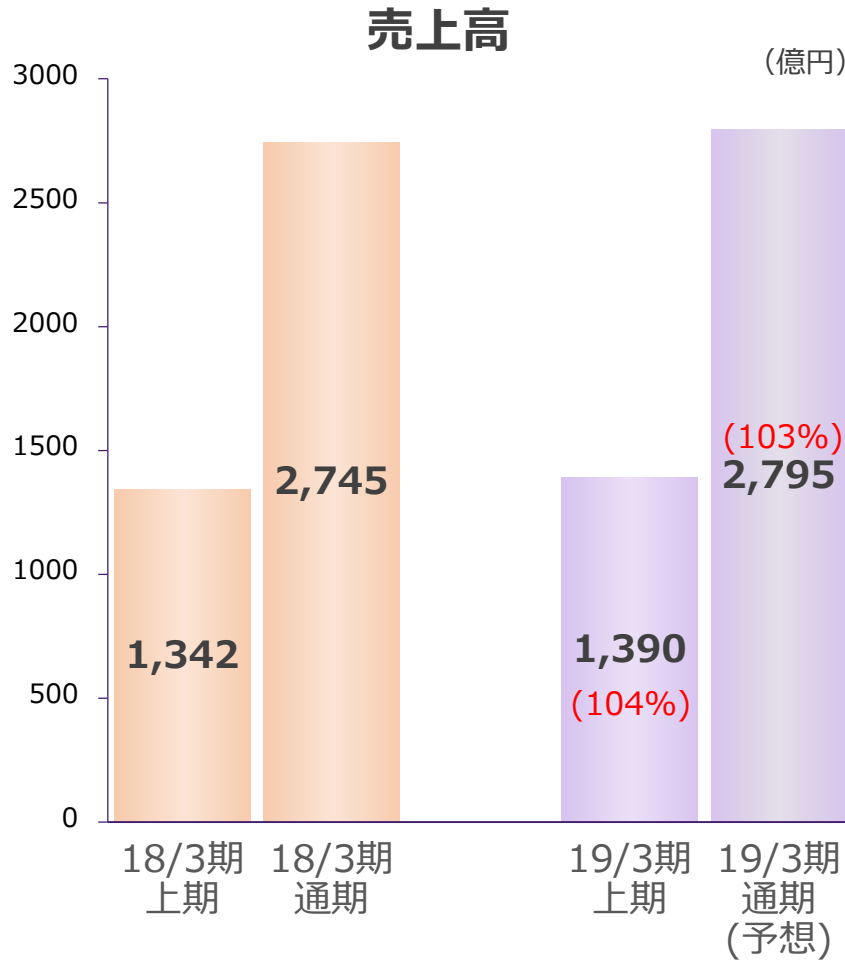
		18/3	19/3予想	前期比	為替影響
楽器事業	売上高	2,745	2,795	+50	▲41
	営業利益	346	405	+59	▲4
	営業利益率	12.6%	14.5%	+1.9P	
音響機器事業	売上高	1,218	1,235	+17	▲23
	営業利益	107	110	+3	+1
	営業利益率	8.8%	8.9%	+0.1P	
その他の事業	売上高	367	390	+23	▲3
	営業利益	35	35	0	0
	営業利益率	9.5%	9.0%	▲0.5P	

* 新規事業開発費用の負担の見直しによる営業利益影響額・・・楽器事業 +9億円、音響機器事業 ▲9億円



2. 事業別概要

売上・営業利益

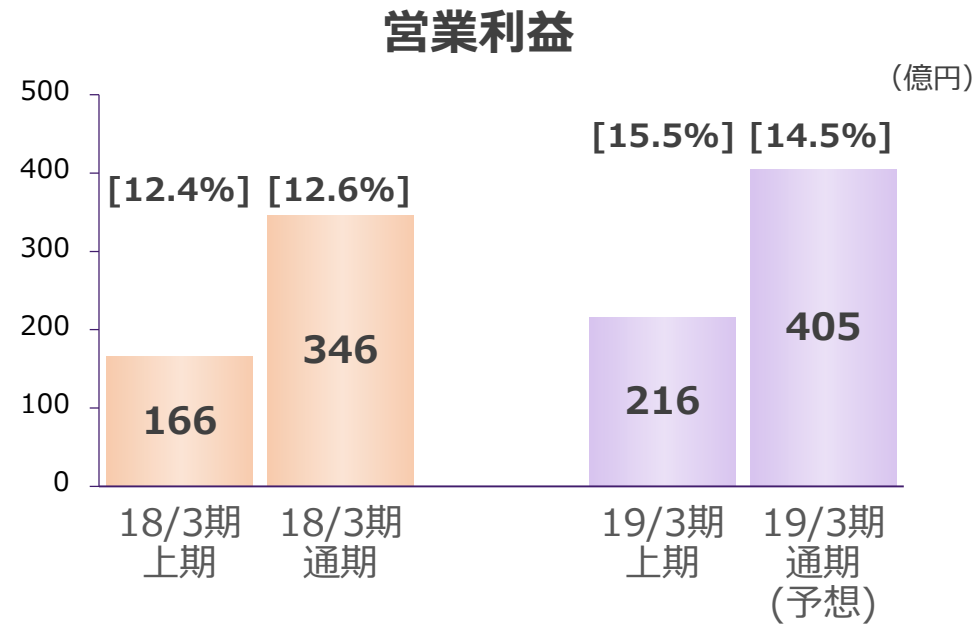


[上期状況] 全商品カテゴリーで増収達成

- ・商品別：ピアノは欧州除き好調。DPはエントリー新商品貢献。管楽器は全地域で増収。ギターは中国・北米・新興国で2桁成長
- ・市場別：中国・北米で2桁成長

[通期見込] 全商品カテゴリーで増収予想

- ・市場別：中国で2桁成長継続。北米・新興国堅調。欧州は販売条件見直し落ち着き前年並み



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は営業利益率

主要商品 売上状況

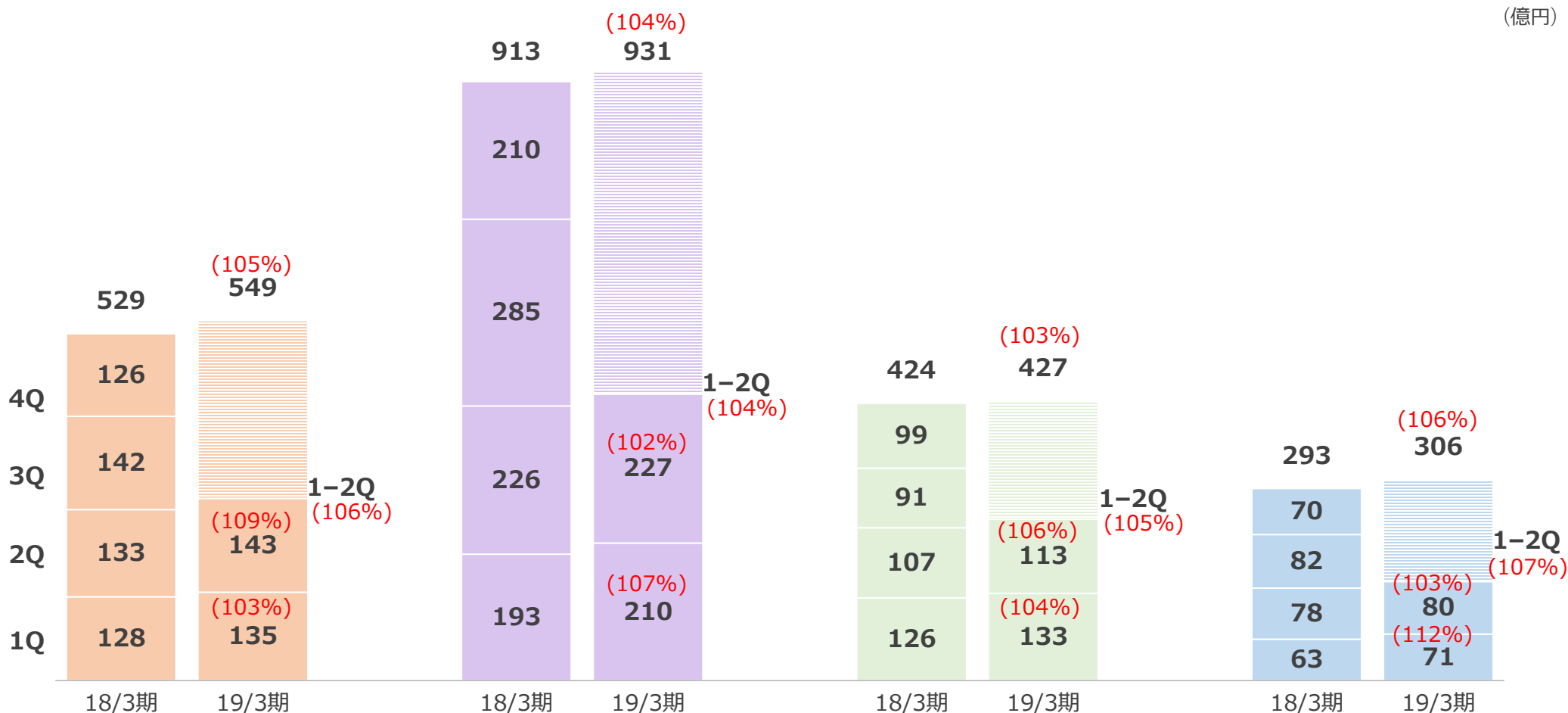
ピアノ

電子楽器

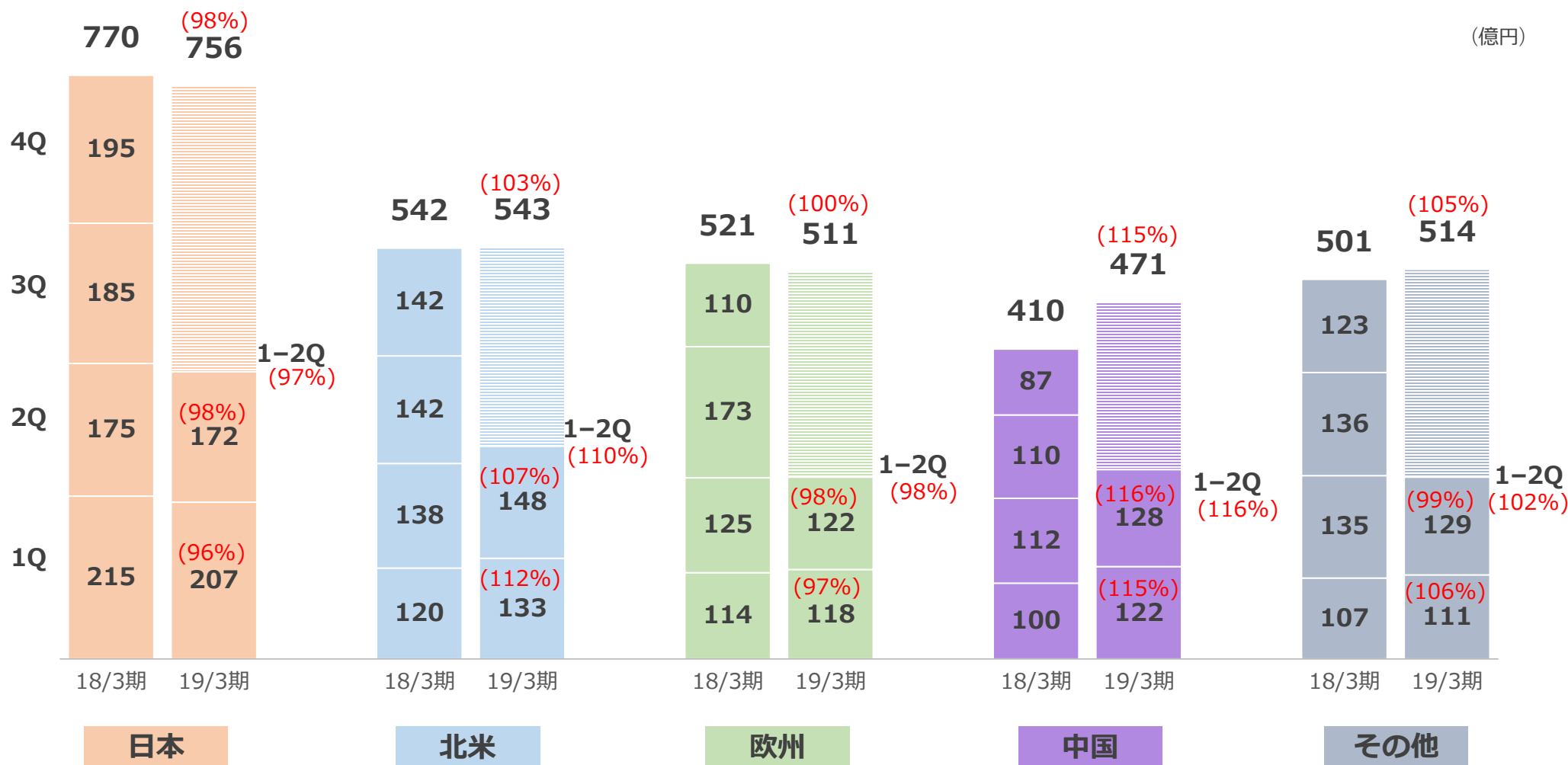
管楽器

弦打楽器

(億円)



地域別販売状況



※ソフト、音楽教室等を含む

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

個性際立つ商品の開発

幅広い技術を融合した個性的な商品群

～アコースティック・エレクトロニクスの技術を融合し、新たな顧客価値を創造～

『トランスアコースティック™ピアノ』
『サイレントピアノ™』
のラインアップを一新



大人趣味層に人気の高いコンパクトな
電子ピアノ「Pシリーズ」に
新たな2モデルを追加



電子ピアノ『P-515』

木製鍵盤を搭載、本格的なピアノ性能と
スマートなデザインを備えたシリーズ最上位モデル



電子ピアノ『P-121』

気軽に運べて気軽に置ける、シリーズ初の
コンパクトな73鍵モデル

簡単なセッティングでアコースティック
ドラムを高音質で収録・録音できる

エレクトロニック
アコースティックドラムモジュール
『EAD10』



2018年度グッドデザイン賞

ボーカロイドキーボード『VKB-100』が グッドデザイン・ベスト100に選出



GOOD DESIGN
AWARD 2018



ボーカロイドキーボード
『VKB-100』

～電子ピアノ、ハイブリッドピアノシステムを含む合計4件が受賞～

ボーカロイドキーボード『VKB-100』*1

電子ピアノ『P-121』『P-125』*2

電子ピアノ『P-515』

ハイブリッドピアノシステム『TransAcoustic™ TA2』

が「2018年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

(2018年10月)

*1 『VKB-100』は「グッドデザイン・ベスト100」に選出

*2 『P-121』『P-125』で1件としてカウント



電子ピアノ『P-125』



電子ピアノ『P-515』



ハイブリッドピアノシステム
『TransAcoustic™ TA2』

主要施策の進捗

ギター事業の新組織（Yamaha Guitar Group）による施策が進捗

Ampegブランド 事業譲受（2018年5月）

ベースアンプ等の商品分野で世界的に知名度の高いAmpegブランドの事業を譲受

Yamaha Guitar Group



Yamaha Guitar Story

- ・ヤマハギターのバリューを表現するストーリーを作成
- ・スケール・スキル・スピリットをキーメッセージとして展開
- ・メディア展開スタート 第一弾は米国大手ディーラーSweetWaterのWEBサイト掲載

— QUALITY INSTRUMENTS FOR OVER 130 YEARS —

Tradition



Yamaha's been creating fine musical instruments since day one, bringing in top-level craftsmen to build some of the finest pianos and reed instruments the world has ever seen. Right from the beginning, they set the bar high, and only real passion for music and technology has allowed them to meet and exceed their own standards over the following 130 years. Today, Yamaha is a giant in many aspects of the music industry and beyond, and countless guitarists, bass players, and other musicians count on their gear every day.

Innovation



The name Yamaha conjures up a lot of different images for a lot of different people. Some people immediately think of their grand pianos or trumpets, while others think of motorcycles and watercraft. And that's not all — Yamaha has made families, sporting goods, supplies, semiconductors, and even industrial robots! So how can a giant company that's diversified that much possibly build guitars that not only rival but surpass many of the most popular guitar makers in the world? The answer might surprise you.

— HIGH-TECH HARMONY —

Collaboration



In fact, this symphony of talent that gives Yamaha guitars such an edge. The same kind of equipment and expertise involved in designing Yamaha Motors cutting-edge sport bikes and watercraft is behind the hardware that keeps your Yamaha guitar in tune and stable. If you think carving a maple neck or bracing a spruce top is difficult or complex, then you should see what goes into crafting the soundboard of a CUSIS Concert Grand piano.

Depth



When it comes to technical skill, you can bet that a company capable of engineering a F1 race industrial robotic arm can design cool and creative guitars. And that aspect of Yamaha musical instrument goes far deeper than the surface. While the sleek curves and contours of that beautiful Revstar electric guitar may conjure up images of a SuperSport bike, the technology under the hood is just as impressive.

— RELATIONSHIPS COME FIRST —

Omotenashi



There's one final aspect of Yamaha guitars and bases that makes them truly special, and it's something that runs through all Yamaha products: It's the Japanese philosophy of Omotenashi. Loosely translated, Omotenashi means "hospitality," but its connotations run deeper than that. Its origin is in the Japanese tea ceremony (jado), in which the host takes care of every detail, going beyond merely meeting expectations to taking pride in the wholehearted care they provide.

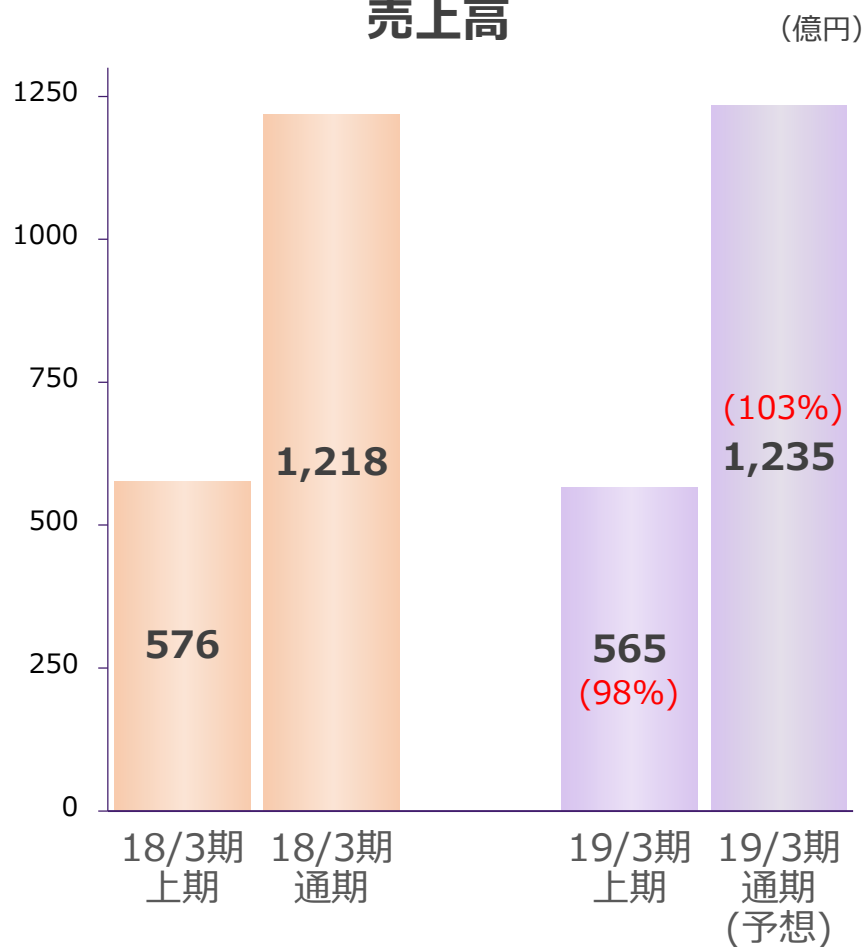
Integrity



As guitarists, we can feel the cultural spirit of Omotenashi in every Yamaha guitar we play. It's as though the guitar we just picked up was personally built for a dear friend. It doesn't matter if it's their least-expensive student model or their latest custom creation, the instrument clearly transcends its price. What sets these guitars apart is an indefinable quality — the special combination of sound, feel, and aesthetics that's more than the sum of its parts. It's why Sweetwater is always proud to recommend Yamaha guitars.

売上・営業利益

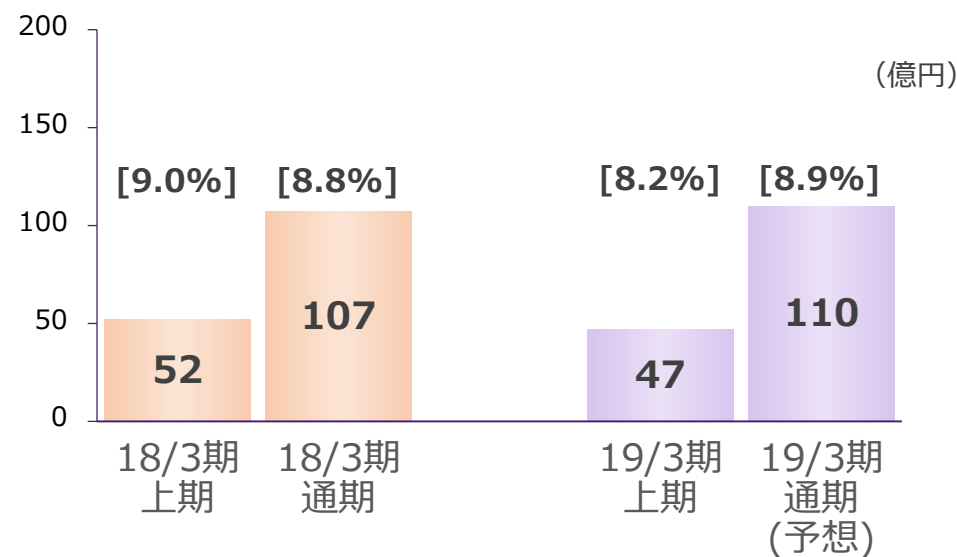
売上高



[上期状況] PAは伸長するも音響事業全体では前年下回る
 ・AVは、米国の大手量販向け出荷期ずれ影響、レシーバーの需要変化により前年を下回る
 ・PAは、フラッグシップミキサーが牽引し業務用音響機器好調
 ・ICTは、中国でのOEM減等により前年下回る

[通期見込] 前年を上回る成長を予想
 ・AVは、欧州でのMusicCast拡大、北米の量販店向け復調見込む
 ・PAは、全地域で業務用音響が拡大、音楽制作の堅調さ継続
 ・ICTは、ルーター、LAN製品、会議システムが伸長

営業利益

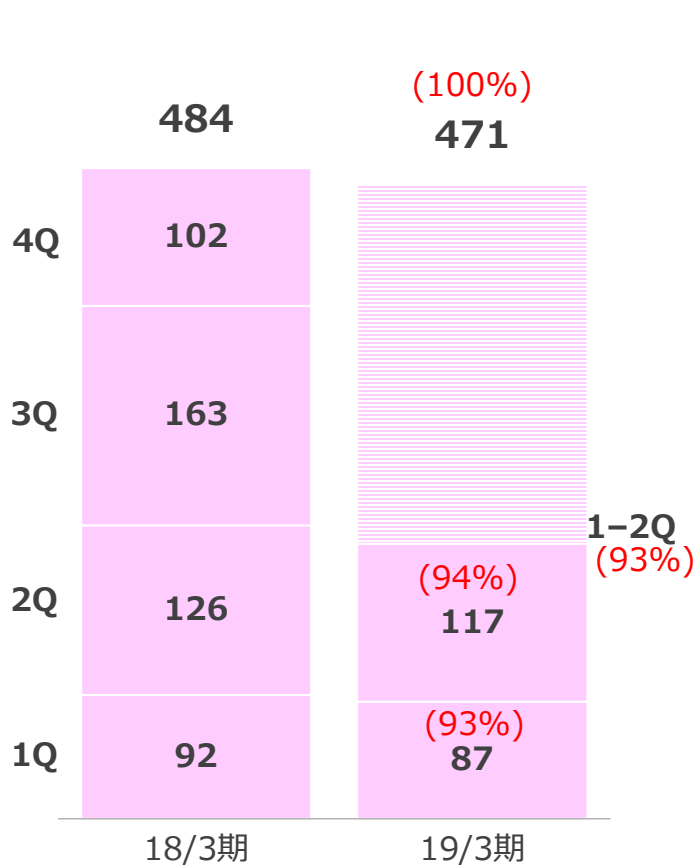


()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

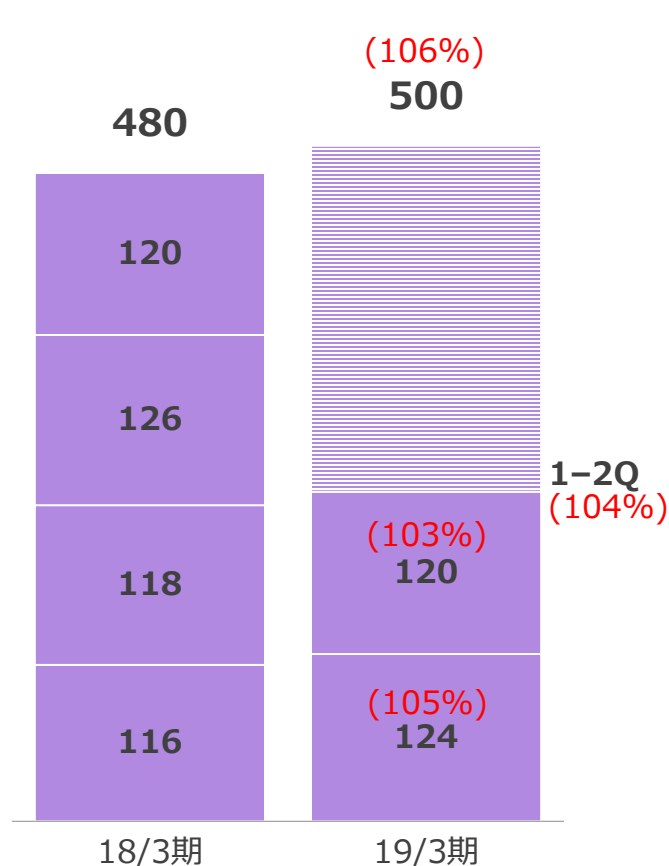
[]内は営業利益率

主要商品 売上状況

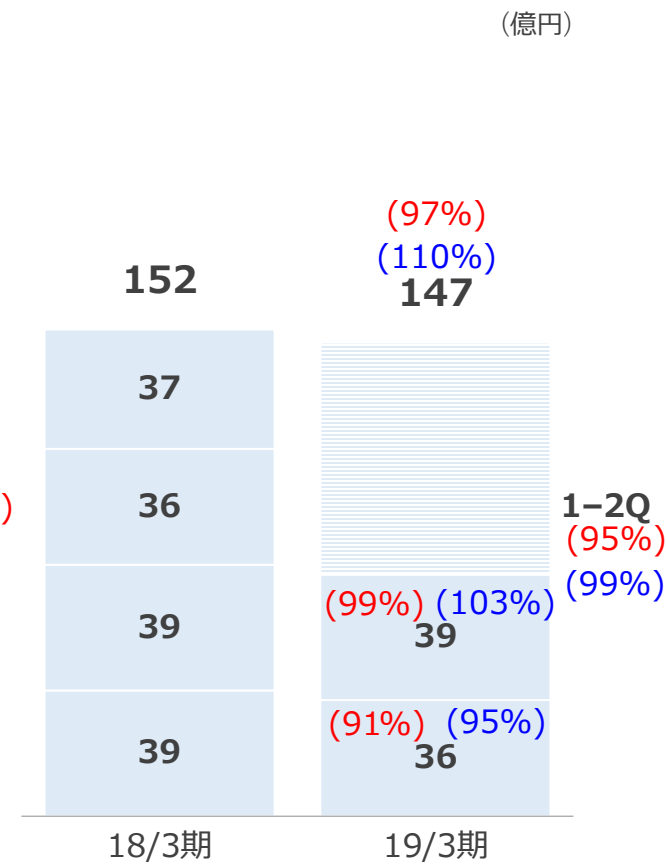
AV機器



PA機器



ICT機器



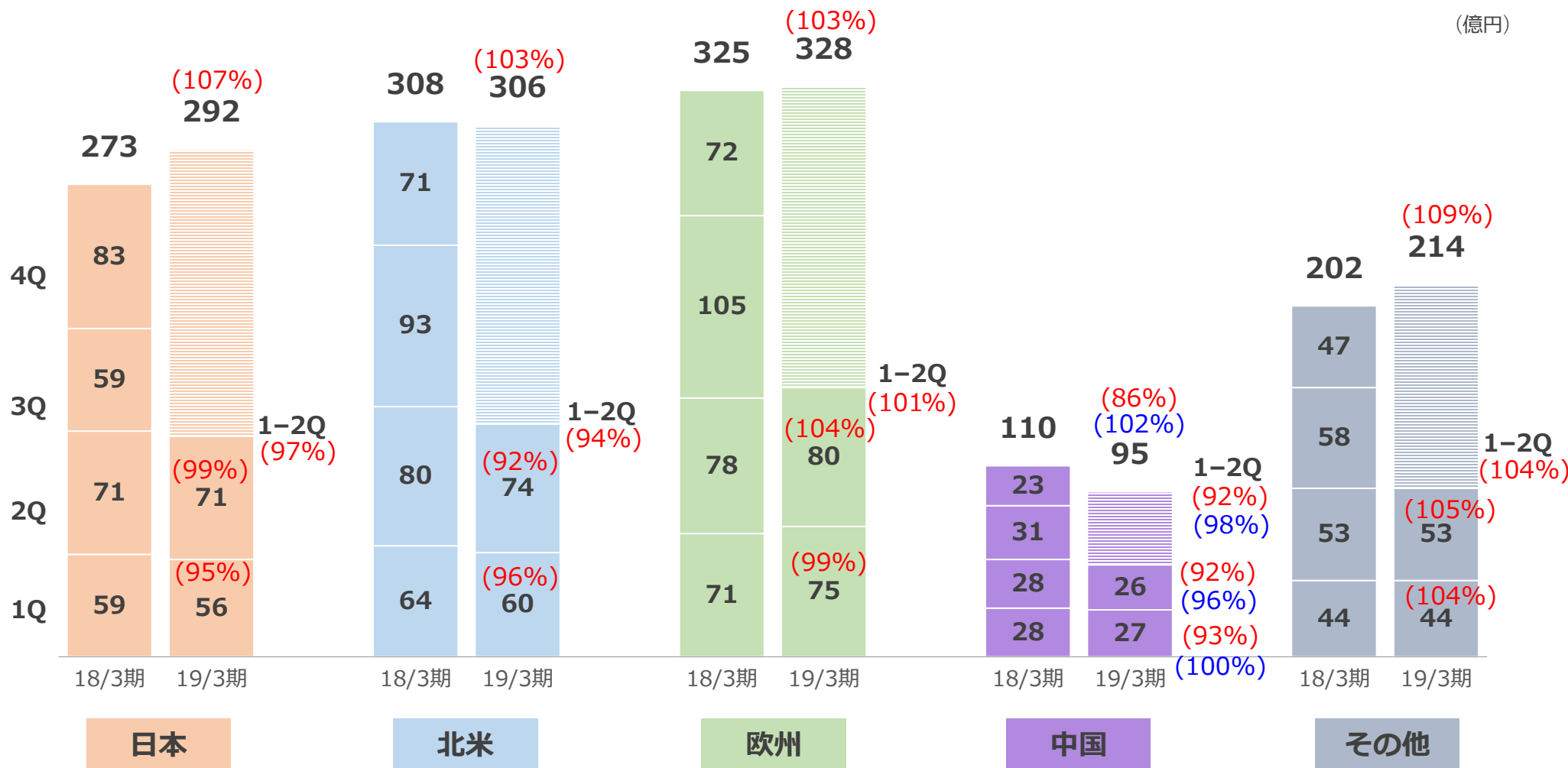
(億円)

※PA機器はハード売上のみ（設備工事を除く）

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

()内はOEM向けを除いた前期比増減

地域別販売状況



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

()内はOEM向けを除いた前期比増減

個性際立つ商品の開発

コネクティッド“音楽でつながる”

音への妥協なきこだわりと独創的な技術により、
“つながる”のその先の価値を提供



MusicCast Surround
(ワイヤレスリア+ワイヤレスサブウーファー)

MusicCast
SURROUND / STEREO



MusicCast Stereo
(ステレオペア + ワイヤレスサブウーファー)

What is MusicCast?

好きな音楽を家中どこでも、好きなときに楽しめるヤマハ独自のワイヤレスネットワーク機能。

アプリひとつで、ネットワーク上の音楽ライブラリーにストックしたお気に入りの曲を選んで再生したり、寝室やキッチンなど別の部屋にある対応機器で同時に再生したり、もっと自由に快適な音楽の楽しみ方を提供します。



ワイヤレスストリーミングスピーカー
『MusicCast 20』



ネットワークターンテーブル
『MusicCast VINYL 500』



フロントサラウンドシステム
『MusicCast BAR 400』

個性際立つ商品の開発

最先端の技術を融合し、新たな価値を創造する商品群

新ラインアップ追加によるデジタルミキシングシステムの
フラッグシップモデルの市場導入展開が本格化

- 今夏ワールドツアーでの採用増・露出増が各市場に波及 -



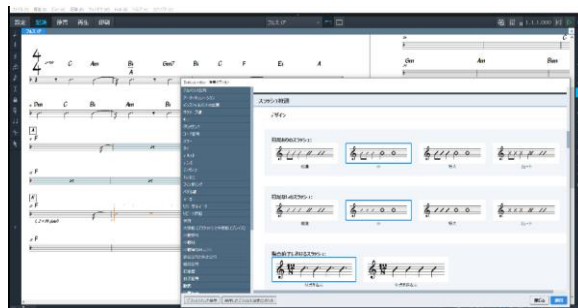
デジタルミキシングシステム
『RIVAGE PM10』



デジタルミキシングシステム
『RIVAGE PM7』



スタインバーグ ソフトウェア
『Dorico Pro』 『Dorico Elements』



フルオーケストラなどの楽譜を効率的に編集し、
本格的な印刷譜の作成も可能

- 直感的なワークフローと柔軟なレイアウト機能、高音質の再生も実現 -

個性際立つ商品の開発

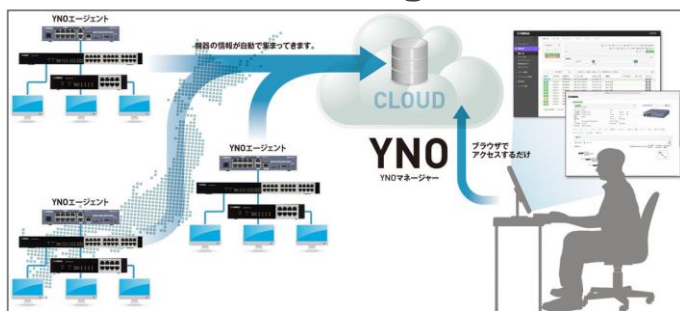
「日経コンピュータ顧客満足度調査 2018-2019」 ネットワーク機器部門において3年連続で第1位を受賞

ヤマハは、株式会社 日経BP(本社：東京都港区、代表取締役社長 新実 傑)による「日経コンピュータ 2018年9月13日号 顧客満足度調査 2018-2019 ネットワーク機器部門」で3年連続第1位を受賞しました。

この調査はIT関連製品とサービスを提供するベンダーへの満足度をCIO（最高情報責任者）や情報システム部長といった製品・サービス導入の責任者が評価するもので、ヤマハは5つの評価項目のうち「信頼性」「運用性」の2項目でトップスコアを獲得。実店舗の環境に合った製品・機能づくりが高く評価されました。



ネットワーク機器の監視・管理を、クラウドベースで実現するネットワーク統合管理サービス
『Yamaha Network Organizer (YNO)』

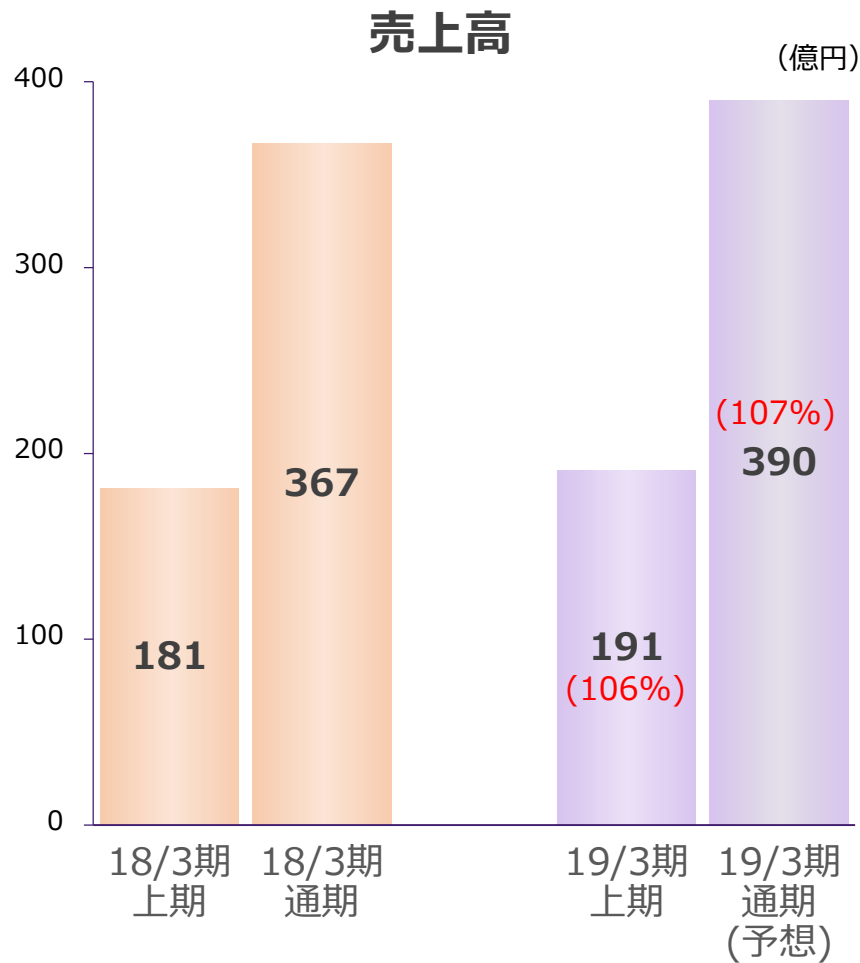


ネットワーク機器の情報を、すべてクラウド上で管理。設定情報を持ち歩くことなく、安全に一元管理が可能。ヤマハネットワーク機器の監視・管理の負担を少なくし、より効率よく、さらにはトラブルにも強い機器管理を実現。



ギガアクセスVPNルーター
『RTX830』

売上・営業利益



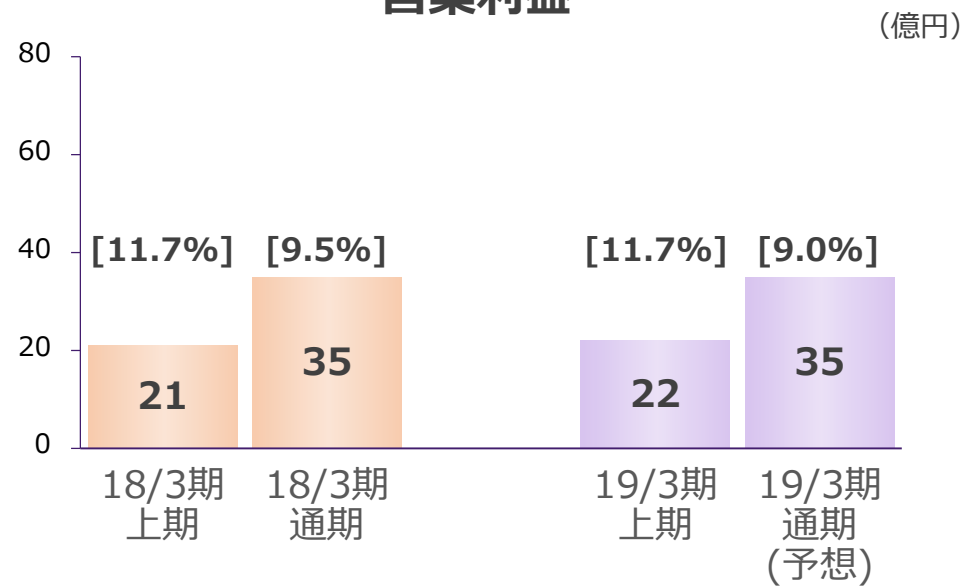
[上期状況]

- FA機器は、スマートフォン向け検査機好調で大幅伸長、カーパーツは供給先拡大により好調継続

[通期見込]

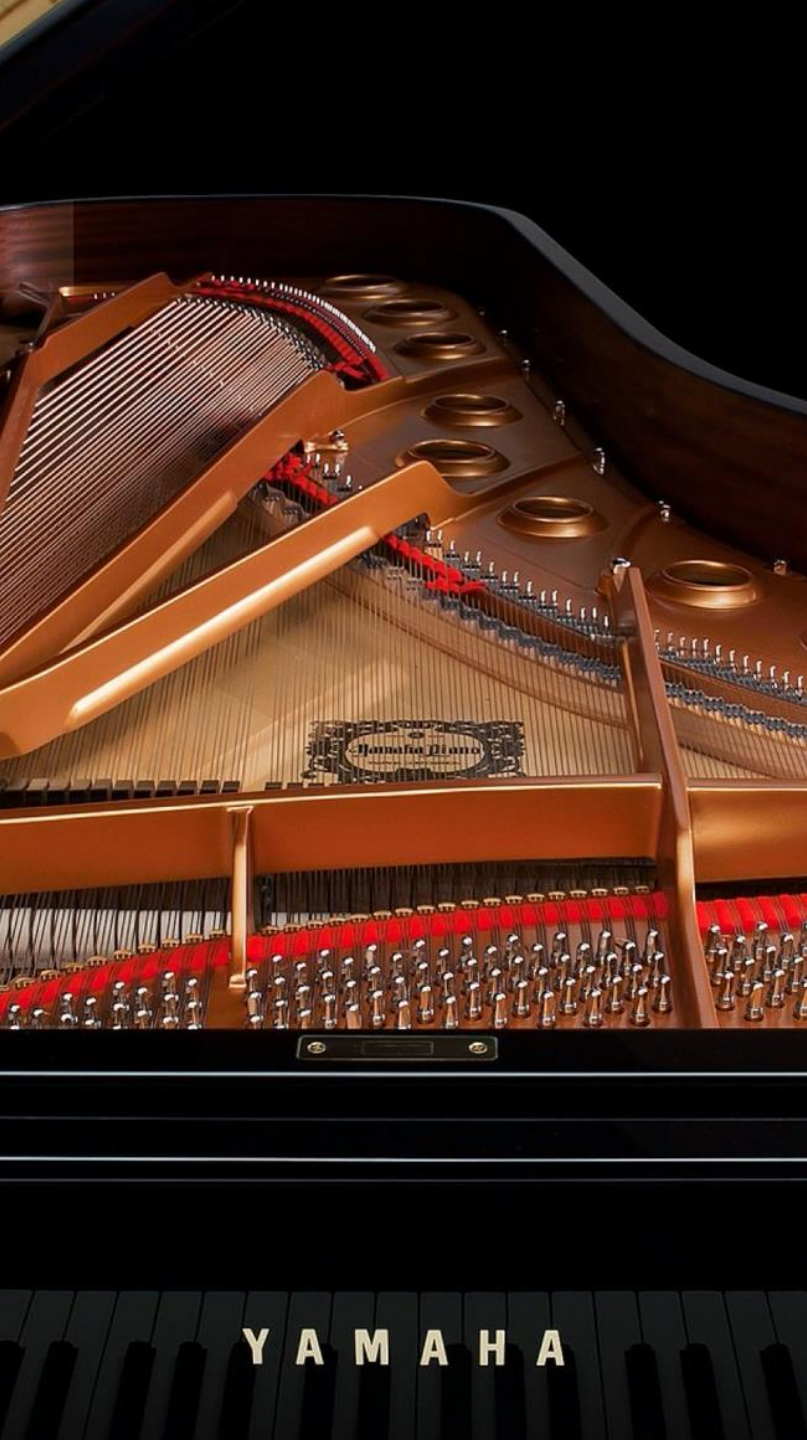
- FA機器は、下期大幅受注減なるも、通期では前年を維持

営業利益 (億円)



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は営業利益率



3. ESGの取り組み

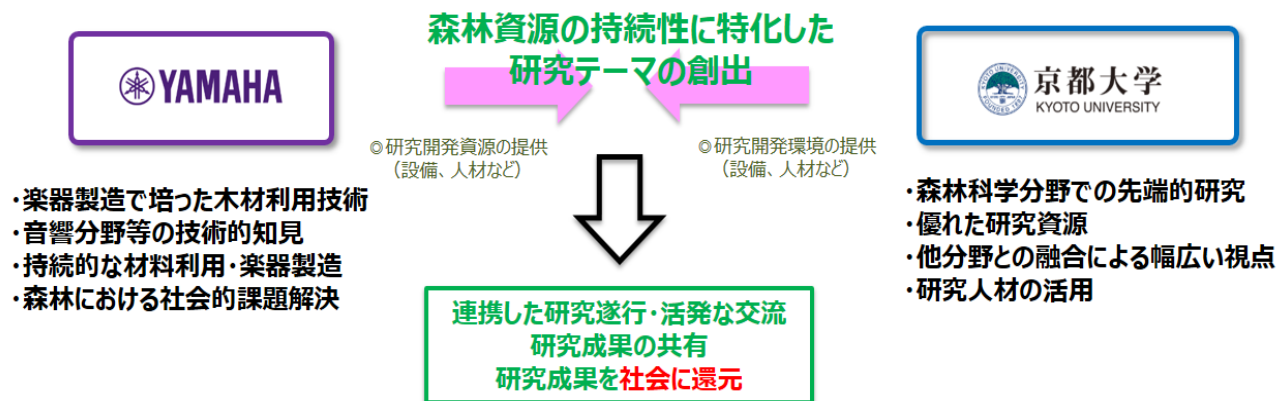
Environment 環境

持続可能な木材調達への取り組み

持続可能な森林資源の育成・利用に向けて 京都大学と研究連携協定を締結



- 良い音とつかう責任—研究成果は積極的に公表、早期の社会還元を目指す -



森林・木材の価値が高まり、関わる社会全体の持続可能性に繋げる



Social 社会

音楽普及活動による青少年育成支援 子どもたちの音楽への憧れと夢を創出するプログラム

～『I'm a HERO Program』をコロンビアで開始～

コロンビア国内一部リーグ「カテゴリア・プリメーラA」の舞台上で
大観衆が見守る中、国歌を演奏



現地時間9月30日（日）に行われたコロンビア国内一部リーグである「カテゴリア・プリメーラA」の一節において、同国の強豪サッカークラブの選手らとともに子どもたち26名がフィールドに立ち、初めて手にする管楽器「Venova™」（ヴェノーヴァ）によるコロンビア国歌の演奏を大観衆の前で披露しました。

音楽普及活動による青少年育成支援

中南米の多くの国で、犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっています。こうした環境に育つ子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、ヤマハは音楽、楽器を通じた地域貢献や音楽普及活動により、青少年の健全育成や音楽教育文化の発展に寄与しています。

Social 社会

新興国での音楽普及活動が着実に進展



～楽器演奏人口増加に向けた音楽普及活動の拡大～

課外活動での器楽教育ができる環境づくりを進めるために、
新興国の公立小学校に楽器・教材・指導ノウハウをパッケージとして提供

【中東・アフリカ地域における音楽教育プログラムの取り組み】

南アフリカ、ナイジェリア、クウェート、UAE、ケニアの5カ国、33校の約3,300人にリコーダーの授業を実施（2017年度）。現在は、パキスタン、モロッコ、ウガンダの3カ国を追加し、活動を拡大中



南アフリカでのリコーダーレッスン



ナイジェリアでのリコーダーレッスン



UAE講師向けセミナー

Social 社会

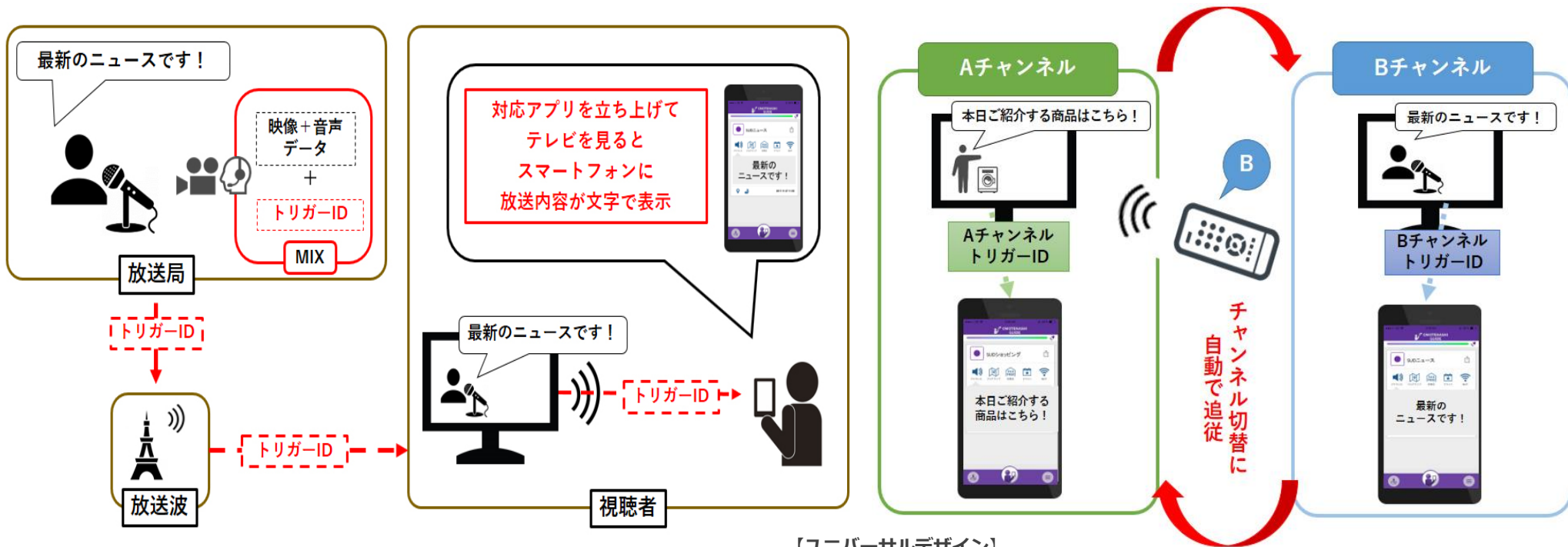
テレビ・ラジオにも音のユニバーサルデザインを 全国16のテレビ局・ラジオ局と連携



「SoundUD※」を活用した字幕支援事業に着手

～総務省 平成30年度「視聴覚障害者等のための放送視聴支援事業」として採択～

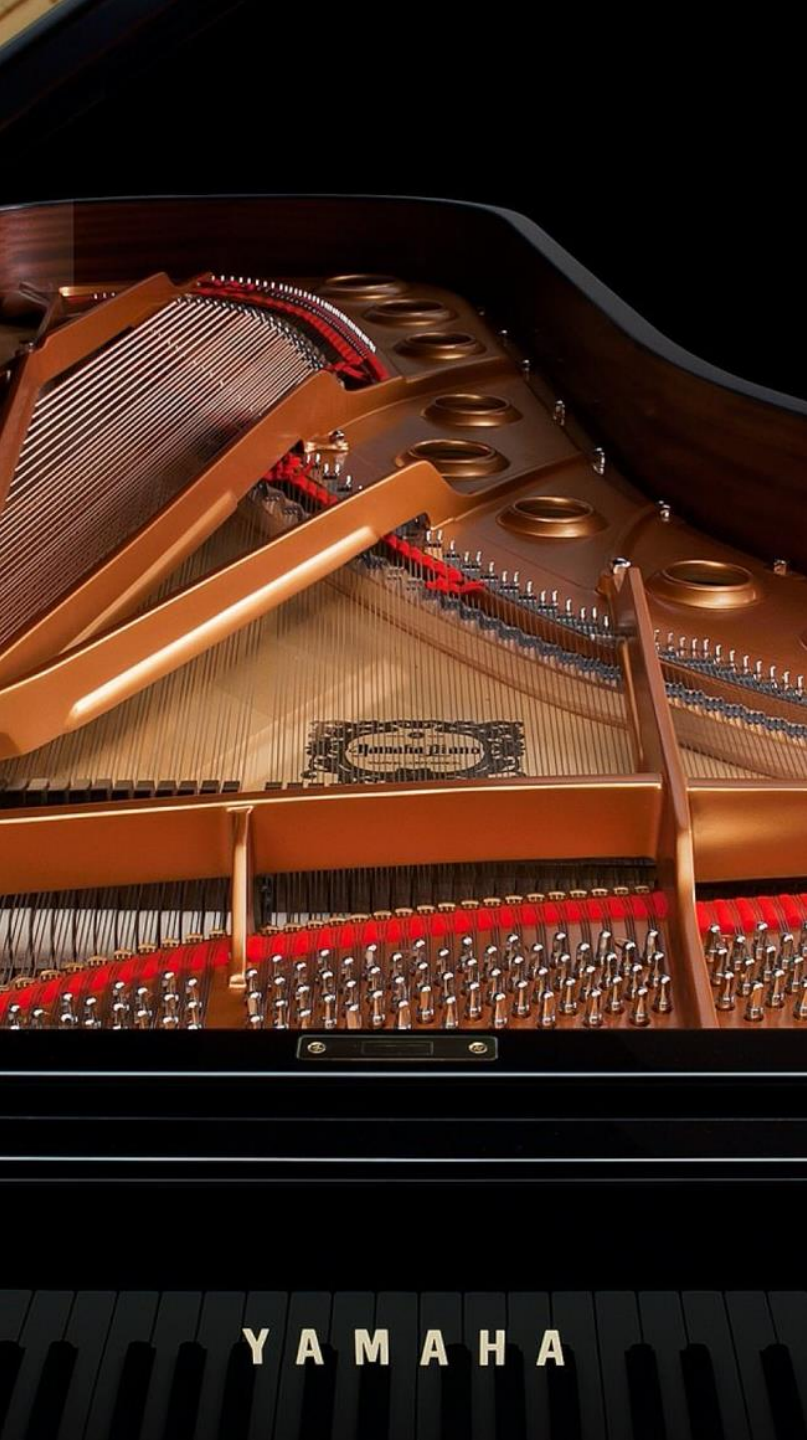
放送局と連携し、視聴覚障がい者や高齢者を含む全ての視聴者が
テレビ・ラジオ放送の内容を理解できる平等な情報アクセスの機会を



※Sound Universal Design : 音のユニバーサルデザイン

【ユニバーサルデザイン】

障害の有無や年齢、性別、人種などにかかわらず、多くの人々が利用しやすいデザイン



4. その他財務数値

貸借対照表

*通期予想は期初（2018年5月発表）から変更なし

(億円)

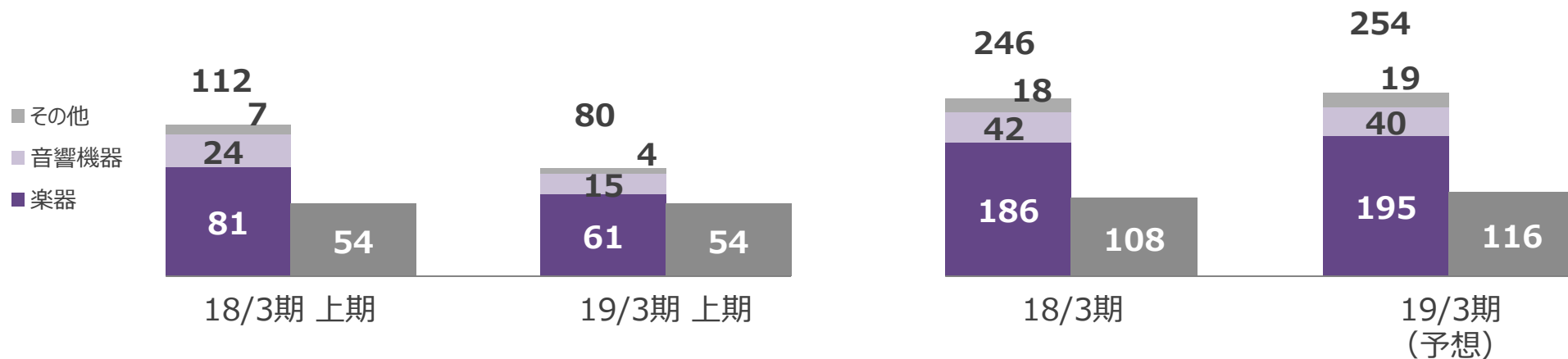
	18/3 上期末	19/3 上期末	増減	18/3末	19/3末 (予想)	増減
現金預金	1,153	1,171	+18	1,227	1,199	▲28
売上債権	602	577	▲25	553	585	+32
棚卸資産	1,039	1,072	+33	941	910	▲31
他流動資産	171	164	▲7	174	183	+9
固定資産	2,904	2,673	▲231	2,628	2,757	+129
資産計	5,869	5,657	▲212	5,523	5,634	+111
仕入債務	200	225	+25	199	204	+5
借入金	276	202	▲74	111	99	▲12
他負債	1,291	1,148	▲143	1,330	1,168	▲162
純資産計	4,102	4,082	▲20	3,883	4,163	+280
負債純資産計	5,869	5,657	▲212	5,523	5,634	+111

* 税効果会計に係る会計基準の改定に伴い、前期数値は組み替え

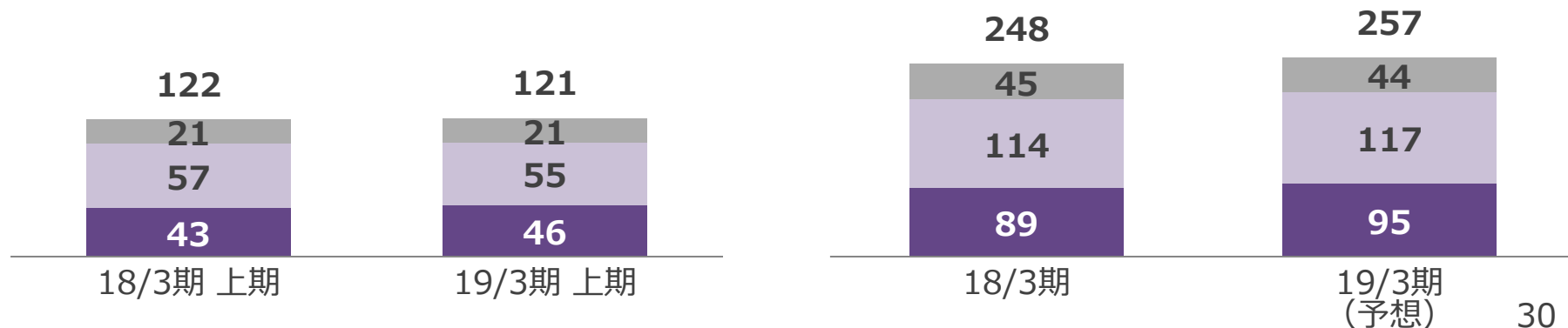
設備投資額・減価償却費/研究開発費

設備投資額 (減価償却費)

(億円)



研究開発費



「ヤマハグループ 統合報告書2018」の発行について

ヤマハグループの中長期的な価値創造について財務・非財務の両面からその進捗をお伝えする「ヤマハグループ 統合報告書2018」を2018年10月24日にリリースいたしました。



仕様：A4版 全90ページ

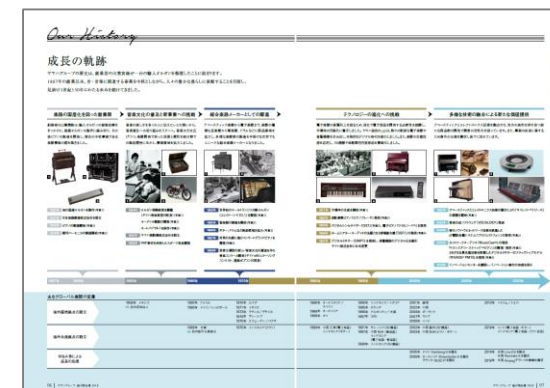
和文：冊子・PDF版

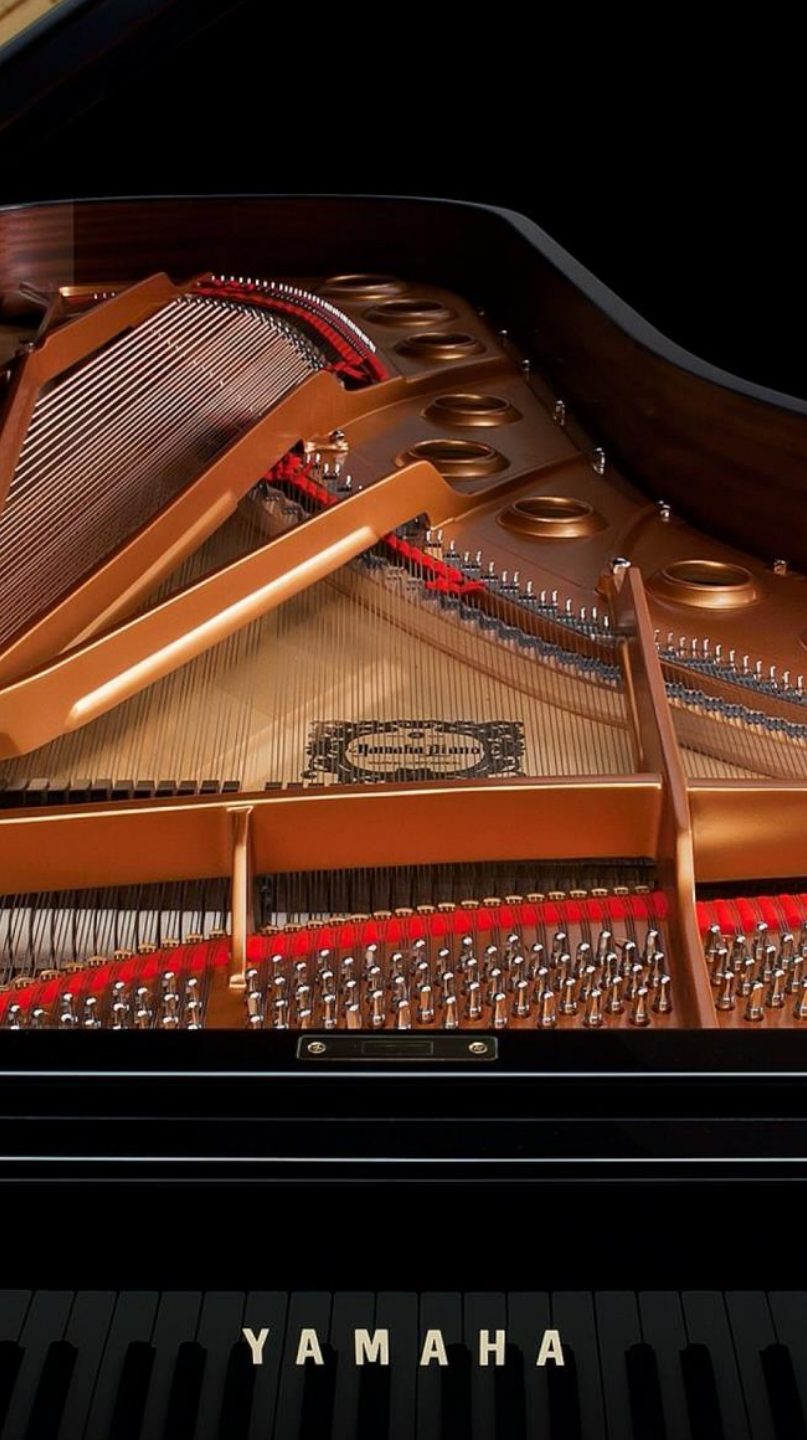
英文：PDF版（2018年12月発行予定）

主なコンテンツ

- ヤマハのビジョンと価値創造
成長の軌跡／ヤマハの事業・価値創造／財務・非財務ハイライト
- 経営戦略
社長メッセージ／財務戦略／事業別戦略／機能別戦略
- 成長への基盤
サステナビリティ／人材／コーポレートガバナンス
- 財務／企業情報
財務サマリー／ファイナンシャル・レビュー／会社・株式情報

ヤマハグループ 統合報告書2018





付属資料

2019年3月期 2Q業績概要

(億円)

	18/3	19/3	前期比	
売上高	1,086	1,095	+9	+0.9% ^{*2}
営業利益 (営業利益率)	124 (11.4%)	152 (13.9%)	+29	+23.4%
経常利益	135	162	+27	+20.2%
当期利益 ^{*1}	103	125	+22	+21.2%
為替レート (円)			*2 +1.9% (為替影響除く)	
売上高 (期中平均)	US\$	111	111	
	EUR	130	130	
利益 (決済レート)	US\$	111	111	
	EUR	123	131	

*1 連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

2019年3月期 2Q事業別実績

(億円)

		18/3	19/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上高	686	699	+13	▲8
	営業利益	84	114	+30	+4
	営業利益率	12.2%	16.3%	+4.1P	
音響機器事業	売上高	311	303	▲7	▲3
	営業利益	32	31	▲2	+1
	営業利益率	10.5%	10.2%	▲0.3P	
その他の事業	売上高	89	92	+3	0
	営業利益	7	7	0	0
	営業利益率	8.0%	7.9%	▲0.1P	

上期 営業外損益、特別損益

(億円)

		18/3	19/3
営業外損益	金融収支	21	22
	その他	▲13	▲10
	計	8	13
特別損益	固定資産処分損益	▲1	0
	その他	▲3	2
	計	▲4	1
法人税他	法人税等	74	81
	法人税等調整額	▲28	▲2
	少数株主利益	0	0
	計	46	80

通期 営業外損益、特別損益

(億円)

		18/3	19/3 (予想)
営業外損益	金融収支	43	37
	その他	▲39	▲37
	計	4	0
特別損益	固定資産 処分損益	▲2 <small>ヤマハ発動機株式売却益 +258</small>	0
	その他	255	0
	計	252	0
法人税他	法人税等	214	139
	法人税等 調整額	▲13	10
	少数株主利益	0	0
	計	201	150

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。